

# 馬門山海軍墓地修復工事の状況等



25.3.26 撮影(安全祈願祭)



25.4.12 撮影(下段墓地):中列 修復工事後



25.3.26 撮影(下段墓地:中列 修復工事前)



25.4.12 撮影(下段墓地:中列 修復工事後)

# 旧海軍墓地を修復

## 横須賀 海自OBらが中心

旧横須賀海軍の戦死者らが眠る横須賀市宮「馬門山墓地」(同市根岸町)の個人墓石などを修復する作業が今月から始まった。海上自衛隊OBらが集う公益財団法人「水文会」(東京都渋谷区)が中心となり、荒れ果てていた墓地を整備していく。

(織田 匠)

約2・5畝の同墓地の一面に、軍艦「愛宕」乗組員の戦死者らの慰霊碑や、個人墓279柱が設置されている。特に山頂に向かう道の脇に並ぶ個人墓の損傷が激しい。長い年月を経た傷みで文字が読み取れないものや、地盤の緩みで倒れている墓石もある。

馬門山墓地は1882年、旧海軍の埋葬地として



損傷が激しいため、修復作業が始まった馬門山墓地の墓石  
—横須賀市根岸町1丁目

設立され、横須賀鎮守府が管理していた。戦後、海軍省の廃止に伴い、大蔵、内務両次官の通達で1951年に横須賀市へ譲与され、現在に至っている。

土地を所有する市は墓地内の清掃や通路の舗装などを行ってきた。横須賀水文会や大津地区連合町内会など地元の有志も清掃するなどボランティアとして見守

ってきた。だが、管理する市健康総務課は「個人の墓石に直接手を触れることはできなかった」と説明。古い墓石は個人の特定が難しく、遺族が把握しているか否かも分からないのが実情という。

荒れた現状を見かねて動いたのが、主に海上の安全

保障に関わる普及活動を行う水文会だった。海上自衛隊の元横須賀地方総監で、同会委員の高嶋博視さん(60)は「初めて見た時はショックだった。先輩たちが眠っている場所だ、何とかしなければと思った」。

修復費は財団法人「防衛施設周辺整備協会」(東京

都港区)が出し、市内石材店の協力で作業に着手。倒れている墓石を起し、1基ずつ土台をコンクリートで固めていく。「歴史的、文化的価値もある」と高嶋さん。既に大学など研究機関が興味を示しており、今後は「保存会」の設立を模索していく。